

「永遠」に接する時間

＜今月の聖句＞その家に入ったら、『平和があるように』とあいさつしなさい。
(マタイによる福音書 10章 13節)

大きな重機が轟音をたてて、壁や屋根を削っては、すくい上げていきます。
今まであった大きな建物が、大きな口をあけて、どんどん小さくなっていく。
お散歩中、ちょうど通りかかったつくし保育園の乳児さんたち。
さぞや興味津々だったことでしょう。
その建物とは、現在、取り壊し真っ最中の関西みらい銀行。
長年町内で親しまれた銀行がなくなるのは少しさみしい…
なんていう大人の感慨をよそに、子どもたちの目は
天高くアームを伸ばすクレーンや掘削をする大型車に、釘付けです。

大人はややもすると、少し見ただけで、音が…などと
すすっと脇を通り過ぎていってしまう。けれど
子どもたちにとっては「なんかすごいぞ、これ」。
まさしく一期一会。その時間（そして、その時の子どもの気持ち）を感じ取り
大事にできるのも、つくしの保育です。

あるお父さんが2歳の次男と動物園に行ったそうです。
はじめての二人きりのお出かけ。そこで、はじめて、本物の象さんをみた。
「じ〜っ」と体全身から音がでるくらい、見つめつけ、動こうとしない。
お父さんはしびれをきらして、「また今度来ようね」、
すると、その子は、「まだここにいたい」
おとうさんは思いました。「間違っているのは僕の方かもしれない」。
「また今度」なんて実は二度とこないかもしれないのだ。
こんなに我を忘れるように見入っている後ろ姿も、二度とないかもしれない。

「二度とない」貴重な時間、これを聖書は「永遠」と呼びます。
いつも「永遠」と接している喜び、そして感謝。だから子育てはやめられない。
(つくし保育園園長 つだかずお)

＜だいでご教会礼拝のご案内＞ 日曜日あさ10時30分 だいでご教会
懐かしい讃美歌、聖書のおはなし。初めての方を歓迎します
子どもやご家族と一緒に、楽しく明るい礼拝を